

令和7年度 吉備国際大学「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
(リテラシーレベル)」自己点検・自己評価

【履修状況】

本学では、同プログラムを令和4年度より実施している。この教育プログラムの学生の履修・修得状況については、全学教養教育委員会情報教育部会において点検・分析・改善を行い、全学的な履修者数・履修率の向上を図っている。昨年度と同様、プログラムの資料(フライヤー)を作成し、学科別オリエンテーション、情報活用の講義内等において科目の必要性等の説明を継続的に実施し、令和8年度は188名と履修数が増加した。「数理・データサイエンス・AI 応用」に関して、「数理・データサイエンス・AI 基礎」との両科目の単位修得によって、修了証を得られるPRを実施し、履修者が増加した。

(履修者数)

科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
数理・データサイエンス・AI 基礎	19	92	110	188
数理・データサイエンス・AI 応用	—	15	23	113

【単位修得状況】

以下の表は、本プログラムを構成する「数理・データサイエンス・AI 基礎」および「数理・データサイエンス・AI 応用」の単位修得状況である。履修者数が増加する一方で、単位修得をできない(不可・放棄)者も一定数存在する(基礎:11.7%、応用:1.8%)。一方、令和7年度においては、基礎で67.5%、応用で42.4%以上の履修者が5段階評価の4(優)以上を修得しており、単位取得者の理解度は高かったと考えられる。

(単位修得状況)

科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
数理・データサイエンス・AI 基礎	17	87	100	168
数理・データサイエンス・AI 応用	—	15	23	111

【授業アンケート】

授業終了後に学生による授業アンケートを実施しており、この結果を通じて授業内容の理解度や学習内容に対する学生の意見を収集し、教育内容の改善を図っている。「数理・データサイエンス・AI 基礎」では、「授業内容を分かりやすく説明していた」および「学生の理解に合わせた授業をしていた」といった項目において、約 90%の学生が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答している。「数理・データサイエンス・AI 応用」では、Microsoft Teams のチームの「会議」機能を活用し、各回の授業終了後、学生の授業の理解度(主観的パーセンテージによる回答を求めている)の確認と感想を集約しており、受講者はおおむね理解度が 80%であると回答している。

【外部評価】

本学では、市役所や近隣の高等学校、教育委員会および商工会議所等、産業界の方々に協力いただき、自己点検・自己評価委員会において意見を頂いている。令和7年度は、今の時代に必要な数理・データサイエンス・AI 科目の履修者増は良い傾向である等、興味を持つ学生が増えていることの評価をいただいたが、今後も外部からの視点を踏まえた意見を教育プログラム内容・手法等へ反映させ、改善を行う予定である。

【今後の検討事項】

授業改善の一環として、学生の履修実態を踏まえ、履修しやすい時間割編成や開講形態の工夫を行い、履修者数の増加を目指す。また、単位取得状況からも分かるように、統計学・数学やテクノロジーに苦手意識をもつ学生の増加が見込まれることから、授業の進め方や教材、学習支援の方法について継続的な改善を図る。